

2. 調査方法と内容

本調査は、金沢大学の留学生がどのような目的で日本語を学んでいるか、どのような日本語教育を求めているかを明らかにすることを目的として、紙によるアンケートの形式で行った。

アンケート調査紙面は日本語と英語を併記して作成し、金沢大学に在籍する留学生（482名、2012年4月1日時点）に2012年7月上旬に配布し、7月下旬に回収した。当時総合日本語プログラムを受講している学生については、受講しているクラスの授業で配布した。受講していない学生については、全学の学務係からそれぞれの留学生に届くよう配布を依頼した。アンケート用紙の配布数は482、回収数は246であり、回収率は51.04%であった。

アンケートの構成は1) 学習者についての質問（プロフィール）、2) 総合日本語プログラムについて、3) 日本語学習の目的・ニーズについて、の3つから成る。

1) 学習者についての質問では、属性に関する質問、渡日前の日本語学習歴、在籍期間について質問し、本学で学ぶ留学生の一般的な情報を得ることを目的とした。

2) 総合日本語プログラムについては、総合日本語プログラムの受講の有無をたずね、受講したことがある学習者に対しては、履修した科目、出席状況、出席があまりできない学習者にはその理由、総合日本語プログラムへの満足度をたずねた。受講したことが一度もない学習者については、受講しなかった理由、受講の意志、開講時間や開講場所についての要望をたずねた。

3) 学習者の日本語学習の目的・ニーズについては、日本語学習の主な目的と、話す・聞く、聞く、書く、読むなどの技能別にどのような場面で日本語の必要度が高いかをたずねた。また、総合日本語プログラムのeラーニングの利用状況とeラーニングで学びたいことについてたずねた。

回答方法は、質問に対してあてはまる項目を選んで回答する選択式を取った。そのほか、プログラムに対する意見や要望などは記入式で回答してもらった。留学生からの記述式回答欄で特に言語の指定はしなかったが、回答は英語または日本語で記入されていた。但し、このアンケート調査に回答した留学生全員がすべての項目に回答したわけではない。したがって、回答者数は質問によって異なっていること、回答者によっては一部だけ回答した場合があることを断っておく。